

銅、
為替相場は米朝会談などが左右か
舊本喬文建一部未

橋本 健一郎 氏リポート(1)

四月前半は、中国政府がトランプ米政権による貿易制裁に対する第二弾の報復措置として米から輸入する大豆、自動車、航空機など

輸入
電気鉄が一二・七%増の五万六〇五t。又
クラップが四六・一%減の一萬五、五五八t。

■前月の国内指標
輸入は電気鋸が前年比四〇・九%減の六万一千
スクラップが一五・三%減の九、〇九八t。

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前年比一・七%減の七万二、六四五t。

【自動車生産】三月の四輪車生産台数は九三万二〇〇三台で前年同月比〇・二%増となり、三カ月ぶり微増。輸出は四四万一、六七五台で前年同月比五・三%増。

四月の国内自動車販売台数（軽は除く）は二三万五、三九〇台で前年比〇・五%増と、七力月ぶり微増。このうち、乗用車一・二%減、貨物二三・一%増、バス八・八%減。

・平成三〇年三月の住宅着工戸数は六万九、六一六戸で、前年同月比で八・三%減となつた。また、季節調整済年率換算値で

・住宅着工の動向については、前年同月比で九カ月連続の減少となつており、利用関係別にみると、前年同月比で持家、貸家、分譲住宅ともに減となつた。

◆自動車販売台数
日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比〇・二%増の九三万二一〇〇三台であつた。
◆自動車生産台数
一〇六・三九→一〇九・八五（円）

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数（軽除く）は前年比〇・五%増の二万五、三九〇台。

◆新設住宅着工戸数
国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比八・三%減の六万九、六一六戸であつた。

◆貿易関連指標
輸出

前年同月比では二ヶ月連続の減少（前年同月比四・二%減、季節調整値の前月比では〇・四%増）。

・引き続き今後の動向をしきりと注視していく必要がある。

四
%
增

前年同月比では一〇カ月連続の減少（前年同月比一二・三%減、季節調整値の前月比では五・九%減）。

(昭和33年5月10日)

(第三種郵便物認可)

(四面より続く)

分譲住宅

前年同月比では先月の増加から再びの減少
では九・二%増)。

分譲マンション

前年同月比では三カ月連続の減少(前年同月
比〇・八%減)。

分譲一戸建住宅

前年同月比では三カ月連続の減少(前年同月
比〇・八%減)。

銅品生産

伸銅品生産は前年比一・七%減の七万二、六

四五tと六カ月ぶりの減少。

このうち、内需五万九、七〇五tで一・四
%減と六カ月ぶりマイナス、輸出一万二、九
四〇tで二・九%減と三カ月連続マイナス。

品種別では、銅条二万三、七二八tで一・
五%減と三カ月ぶりマイナス、黄銅棒一万

六、五一六tで三・六%減と二カ月連続マイ
ナス。

【電線】

前年比五・九%減の五万九、一〇〇t。こ

のうち、国内五・三%減、輸出が一九・六%
減。出荷部門別では、通信三二・七%減、電

力八・三%減、電気機械一・四%減、自動車六
四%増、建設・電販六・二%減、その他内需
一七・四%減。

【輸出】

電気銅輸出が一二・七%増の五万
六、〇五一t。銅スクラップは四六・一%減
の一万五、五五八t。

【輸入】 電気銅が四〇%減の九〇一t。スク
ラップは一五・三%減の九、〇九八t。

【見通し】

・自動車は生産が〇・二%増。国内販売
台数が前年比〇・五%増。小幅ながら生産
が三カ月ぶりプラス、販売が七カ月ぶり
プラス。

微増から増加に転ずるかどうか今後に注
目。

・住宅着工の動向については、前年同月
比で八・三%減と九カ月連続マイナス。下げ
幅が拡大、下落傾向が続くのかどうか今後
の動向に注目。

・伸銅品は六カ月ぶりの減少の前年比一
七%減。需要の多い銅条二三カ月ぶりマイ
ナス、黄銅棒は二カ月連続マイナス、輸出三
カ月連続マイナス

住宅の減少、自動車の伸び悩みが続く中、
伸銅品生産も減少しており、今後の動向に
注視。

・電線は前年比五・九%減の五万九、一〇
〇t。輸出が一九・六%減。需要の多い自動
車、建設・電販がそれぞれ六・四%増、六・
二%減。建設・電販が五カ月連続マイナス
に!

・銅輸入は大幅円安から地金、スクラップ
共に減少。

【スクラップ需給予想】

流通在庫は、G W前、銅建値が八〇万円台
に乗ったことや休み前のリスク売りが済ん
でおり、ほとんどのないのではないか。

需要面に関しては前月に足元の生産状況は
足踏み状態にある。

またメーカーが引き続き人手不足問題か
ら地金を優先に使用していることから、品
位の低いスクラップに関しては購買意欲は
薄く、均衡状態になるのではないか?

【価格・為替予想】

今月は米のイラン核合意離脱その後の動
向や米朝会談及び北の核廃棄問題に左右さ
れる。

米のイランの核合意離脱に関しては、実
際の経済制裁再開まで九〇一八〇日かかる
ことから、間もなく行われる米朝会談へ
のパフォーマンスの可能性もあり、北の核
廃棄がある程度約束されれば合意に戻る可
能性もあり。

米朝会談に関しては、簡単に核廃棄とは
行かないものの、北朝鮮側は追い詰められ
ている状況でもあり、金政権運営が担保さ
れるなら廃棄する可能性もあり。

それらを踏まえた五月の銅価格は、合意
離脱で米が早急な経済制裁を行わず、米朝
会談が問題なく行われた場合、先月高値の
七、〇〇〇ドルを予測。いずれかの場合には
六、九〇〇ドル。

下値はいずれの条件も達成できなかつた
場合、先月安値の六、七〇〇ドル。

為替は、前記材料からドル円は一〇六円
九一一円(TTM)台を予測。
銅建値に関しては七五〇八一〇円程度
と予測している。